

《なぜ、町会・自治会の協力を受けて歳末たすけあい・地域支えあい募金（※1）を集めているのですか？また、募金は任意で行うものではないですか？》

世田谷における「歳末たすけあい・地域支えあい運動」は、東京都共同募金会が主催して、私ども社会福祉協議会が共同募金運動の一環として実施している募金活動です。世田谷区町会総連合会、世田谷区赤十字奉仕団、世田谷区民生委員児童委員協議会、世田谷区等の関係機関・団体の協力のもと、新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人たちが地域で安心して暮らすことができるよう、また、住民の皆様の参加や理解を得てさまざまな福祉活動に重点的に配分している活動です。

「募金活動ですので任意でお願いをしております。」

なお、募集方法につきましては、戸別訪問・街頭募金・イベント募金など、さまざまな方法でボランティアの方々のご協力をいただいています。



《共同募金会の見解》

共同募金運動は、運動開始当初より「国民総たすけあい運動」のスローガンのもと、お住まいの地域の福祉サービスの充実・向上を図る運動として、地域の皆様にご協力いただき、支えられてまいりました。町会や自治会の皆様のお力をお借りし、地域にお住まいの出来るだけ多くの方々に共同募金運動の取り組みをお知りいただき、ご協力をお願いしたいと思います。そのため、住みやすいまちづくりを推進するリーダー役である町会・自治会の皆様をお願いしております。



※1 歳末たすけあい運動の成り立ち（中央共同募金会HPより）

1906（明治39）年、救世軍の山室軍平中將が「日露戦役中は、前線の兵士に慰問袋を送り、戦勝の今は貧乏と戦う貧困家庭を慰問激励しよう」と提唱したのが、歳末たすけあい運動の起こりと言われています。それに応じた毎日新聞（注・現在の毎日新聞とは異なる）が、紙面を通じて同情金を募集し、一般の人々に呼びかけました。その後、昭和初期の世界的な不況が契機となって、全国各地に方面事業助成会の主催する歳末同情週間が広まりました。この寄付金で、気の毒な人たちなどに餅などが配られましたが、戦争が激化するに従い、この募金は中止されました。

戦後、混乱した社会経済状態の中で、戦災者、引揚者、傷痍軍人、失業者など、助けを必要とする多くの人々があり、その日常生活は非常に悲惨でした。このため、政府の提唱で、「国民たすけあう運動」を展開しようという計画が進められました。また、全日本民生委員連盟でも、「歳末同情運動」を計画しました。

しかし、同時期に共同募金運動の計画が進められており、厚生省の調整のもとに、「共同募金」としてまとめられ、「国民たすけあい共同募金運動」として、共同募金が始まりました。この動きとともに、共同募金とは別に、再び歳末同情品を募集する動きが各地で自然に起きてきました。これが、地域歳末たすけあいの起こりです。その後、民生委員・児童委員協議会が主催する歳末たすけあい運動として発展していきました。全国各地で、歳末時期に、生活相談、健康相談、就職斡旋、生活困難者への慰問・激励など、幅広い活動が行われました。

1959（昭和34）年、歳末たすけあい募金が、共同募金の一環となり、歳末たすけあい運動の内、「寄付者からの寄付金や品物」に関し、共同募金として、各都道府県や市町村の共同募金会（支会分会）が取り扱うことになりました。

さまざまな募金活動の展開方法（中央共同募金会HPより）

- ・「戸別募金」：ボランティアの皆さんが、地域の各家庭を訪問して募金を呼びかける。
- ・「街頭募金」：街角や人の集まる場所で募金を呼びかける。
- ・「法人募金」：企業を訪問して寄付を依頼する。
- ・「職域募金」：企業の従業員の方に職場での募金を依頼する。
- ・「学校募金」：学校において児童・生徒に募金を呼びかける。
- ・「イベント募金」：イベントを企画して募金を呼びかける。

世田谷区で集められた募金は全て世田谷区の福祉事業に活用されています。配分先につきましては以下の共同募金会のURLでご確認いただけます。

<http://hanett.akaihane.or.jp/hanett/pub/homeTown.do?data.iisCd=13112>